

令和 2 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570812461		
法人名	有限会社ふぁみりい		
事業所名	グループホームふぁみりい		
所在地	秋田県大仙市四ツ屋字上古道199-1		
自己評価作成日	令和3年2月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	令和3年1月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

行事、外出に力を入れている。月ごとの担当を決めて最低3回は季節にまつわる行事、誕生会を行い、肌や目や舌で季節を感じれるように心がけている。食事も季節のものをたくさん取り入れて、旬のものをできるだけ楽しんでいただけるように心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

月に3回の各種行事を計画実行しており、コロナ禍でストレスが溜まらないよう、室内行事を更に充実させゲームなどで楽しく過ごせるよう工夫している。利用者1名あたり2日に一回の入浴を実現している。旬の野菜はもちろんのこと、ハタハタ、タラ汁、芋の子汁等おいしい数多い行事食の写真がホームの食の豊かさを物語っている。協力医療機関の医師が運営推進会議に毎回参加している事に驚かされる。窓からは広大な田園の四季の移ろいが満喫できる。夏はカエルのオーケストラ、秋にはコオロギの泣く声を楽しめる。全家族へ毎月本人の写真付きの近況報告を郵送しており、家族からとても信頼され、感謝されているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	代表者とともに、管理者、職員一体となって理念共有し、まずは自分たちが楽しく！を心がけている。	ホームのあちこちに理念が掲示されている。平成23年にホームが移転した際に現管理者が着任し、スタッフと共に作成した理念は、「笑」をテーマにし3項目からなる。1項目の「1日1笑」に思いが集約されているとの言葉通り、全スタッフに浸透しており、当日の昼食時に笑顔で利用者とは会話するアットホームな雰囲気を感じた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の中そういったつながりすらも遮断されてしまいがちであった。農協や郵便局と一緒に出向いたりはできている。	近隣住民である元スタッフが、行事係からの依頼で踊りボランティアとして訪問している。毎週近隣の住民がブードル犬を連れて訪問し、交流することもある。ホームの畑を耕運機で掘り起こす等の下準備を元利用者様のご家族様が協力してくれている。運営推進会議の委員が日頃からホームの応援団として、協力してくれるとのこと。近くの小学校の桜が咲くと花見に出かけている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	貢献しているとは言えない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	主に利用者様の情報や、身体拘束の研修等取り入れ、地域で行われる情報や介護保険事務所からの情報、医療からの最新情報等もいただきながら取り組んでいる。	2ヶ月に一度開催されており、1月はコロナ禍を踏まえ書面で開催している。協力医療機関の医師が運営推進会議に毎回参加している事実に驚かされる。委員が参加しやすい午後6時30分より開催している。運営推進会議メンバーでの懇親会も企画され、遠慮せず意見交換が出来る関係構築に寄与している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	会議時に参加していただき、相談や助言等いただけているが、日頃からといったほどではない。	運営推進会議に市の担当者が毎回参加している。生活保護受給者が4名おり、市の生活保護担当者との連携を密にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修や毎朝のミーティング時に常に話し合い、その時に応じたケアを検討し、拘束なしにできるよう心がけている。	玄関に「身体拘束排除宣言」の文字、身体拘束廃止委員会が3か月に一度開催され、他施設の事例研究等を実施しており、内容が全スタッフに周知されている。対象利用者は皆無である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	夜勤者が一人ということもあり、一般的にグループホームの職員による虐待が報告されている。そうなる前の話し合いを十分に設け、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在1名活用しているため、幾分理解できている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	面接時、契約時共に聞き取りを十分に行い、不安や疑問時は常にいつでも連絡をいただくように話しながらお互い納得がいくまで話し合っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見に関しては、意見箱等を設けてはいるものの、活用されておらず、手紙や面会時に情報を共有できるようにつとめ、もしクレーム等があれば、必ず反映させるよう努める。	全家族へ毎月本人の写真付きの近況報告を郵送しており、近況報告は管理者が自ら担当している。遠方で訪問出来ないご家族様より沢山の感謝の文章が確認できた。ご家族様からとても信頼され、感謝されているホームと云える。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送りは特にじっくりと行っており、そこで問題視されたことは代表者に話しながら、問題解決を行っている。	毎朝、出来る限り十分に話し合える申し送りの時間を設定している。全利用者の状況を伝達し、更に社長も参加する毎月の職員会議で話し合われている。社長は週に1~2回は訪問すること。会社全体の職員互助会の存在も確認できた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価を設けているが、昇給等への反映にはつながっておらず、グループホーム内ではまとまっているが、給料面での不満は聞かれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今までは平等に研修に出向いてもらっていたが、コロナ禍で困難になっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者というよりは、管理者が主にネットワーク作りを心がけている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前情報、本人の状態をある程度見ながら訴えられない利用者の訴えを把握し、安心できるような生活が支援できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接時にできるだけ情報を聞き入れるように努めている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	業務に追われ、なかなか時間を共有するのも難しいが、ご飯時、記録時等近くで談笑しながら細かな変化にも気づきながら		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	一緒に悩みを考え解決していこうとしているが、どちらかというご家族様の方が、まるっきりに任せますという気持ちの方々が多く、皆さんのやりやすいようにやってくださいと話されることが多々ある。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	人とのつながりは特に大切にしており、コロナ禍の中でも面会は、感染対策をしながら、まるっきりのシャットダウンをせずに行っている。	本人の馴染みの美容院へ家族が送迎している事例が確認できた。外出やドライブ、友人の訪問受け入れを通して、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。ご家族様へ墓参りへの協力を要望している実態も確認できた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その都度関係性を見極め、トラブルにならない様な席の配置や空間の利用を検討し、決めつけない介護をしている。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	常に行えており、現在も何名ものご家族が新聞を置きに来てくれたり、いらなくなった衣類を持ってきてくれたり、お話に来てくれたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	食事や入浴の時以外はあまり時間を関係せず、休みたい人は休み、テレビを見たい人はテレビを見てもらい、手伝い人、何かやりたい人にはやってもらおうといった強制的でない生活をしていただいている。	書道の得意な利用者様が書いた歌詞や必要な掲示物がホーム内に数多く確認できる。貼り絵やちぎり絵等、切る・糊付け・貼る工程は利用者様個々の得手不得手に合わせ楽しんでいる。調理の手伝いも皮むき・食器拭き・食器片づけ・テーブル拭き等を行ってもらっている。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを最初だけでなく、年に一回見直したりして把握に努めている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	塗り絵、切り絵、手伝い等やれる範囲でやれるやり方を常に検討し行ってもらっている。やりたくない方には別の方法で別のことをお願いしたり、短時間で依頼したりしている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎朝こまごまと検討し、月一の職員会議でまとめ、3か月ごとのサービス担当者会議で総合的にまとめている。	朝の会で全利用者について状況の変化を確認し、気づきや意見・アイデアを介護計画に反映させている。遠方のご家族様には前介護計画を郵送し、介護度や誤嚥等々について連絡調整している。近隣のご家族様とは来訪時に直接話し合うよう心掛けている。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録はできるだけ細かいことでも記録するようにして、同様の問題点等見られた場合は介護計画に盛り込むようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	前回の助言で歯科医師との協力を得られると良い…とのことであったが、協力医である岩田歯科が長期休業に入ったりと不安定であったりし、実際協力をお願いするまでに至らなかった。			
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に必ず確認している。状況に応じて、専門医が必要になった場合は、必ずご家族に伺いを立てており、本人にも説明するようにしている。	協力医療機関である内科医院の医師が運営推進会議に毎回参加している。かかりつけ薬局が1件でも配達してくれ、一包化はもちろんのこと何でも相談できる体制にある。		
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	今まで訪問看護に相談してきたが、回数的に足りないのではないかとということで検討し、すぐに来てもらえる利便性もあり、ショートナーズにお願いすることにしている。			
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中も病院や看護師、家族とのやり取りを欠かさず行った。			
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	葬儀社とも話し合ったり、ご家族様とも、そうなった場合…について話し合ったりして、備えている方もいる。	入居時に「重度化対応、終末期対応指針についての同意書」に基づき説明し同意を得ている。重度化した時点で家族と連絡を取り合い、今後の対応について協議している。遠方のご家族様の場合は、ご家族様同士で対応できることについて話し合っていたこと。コロナ禍の関係で、葬儀社の意向もあり、ホーム側で全ての対応をした経緯も確認できた。終末期ケアについての同意書や看取支援に関する意向確認書も整備されている。		
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修はしているが、実践とまではいかない。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時には数名の方も避難できるよう発電機、ガスストップの準備等はしている。避難訓練にて日中想定、夜間想定にて行っている。	ハザードマップ上、水害の危険性が極めて少ない地域である。今後、地震や水害の対応も含めたマニュアルに整備したいとの意向が確認できた。また、ホーム独自の新型コロナウイルス対応マニュアルを整備意向である。	地震や水害の対応も含めたマニュアルに改定したいとの意向であり、その実現に期待します。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	できることを見つけ、自信を持てるよう、恥ずかしい思いをしないよう心がけている。	方言を意識して使うことで、利用者との気兼ねない関係を引き出すよう会話することを方針としている。丁寧すぎる言葉は避けるよう意識している。		
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	二者択一にしたりして簡単に答えられるような問いかけを行い自己決定を促すものの、ほとんどは「おめきめでけれ」が多いのが事実。			
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴などの時間はやはりどうしても私たちの都合優先になってしまっている。			
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今までまずは職員からおしゃれを…が定着し、利用者様同士もほめあっている場面が増えている。おめの服いいごとと笑顔見られている。			
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しみはもちろんであり、旬のものを多く提供。畑をやっているスタッフは野菜を提供してくれたりしている。プラスして食べやすさを追求して個々の形状を検討し、苦痛の無い食事を心がけている。	ホームの畑から採れた、サツマイモ、ナス、トマト、もろへいや、ピーマン、獅子唐、枝豆、いものこ等々が食卓にあがる。毎月の外食はコロナ禍に対応し、海鮮寿司の出前に切り替えている。旬の野菜はもちろんのこと、ハタハタ、タラ汁、芋の子汁等おいしい数多い行事食の写真が、ホームの食の豊かさを物語っている。年越しには利用者様から希望を聞き取り、献立につなげている。当日の昼食からは、白和えや高野豆腐が、昭和初期の美味を思い起こされた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を常に検討し、食事が落ちてきた方は医師とも相談しながらエンシュア等高カロリーなもので対応したり水分摂取量が不足な場合は水ではなくスポーツドリンクで対応したりと柔軟に対応している。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯を磨ける方は磨き、うがいのみの方はうがい、できない人には口腔内を拭いて清潔保持している。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけ失禁しない様な間隔でトイレ誘導できている。おむつ交換の方は1名。自立できている方でも、座る際に失敗してしまう場合も多いので一部介助することでトイレに排泄できている。	利用者様個々の排泄状況は常に情報交換し、把握するよう力を入れている。特に尿失禁を減らす取り組みが功を奏している。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便については特に気を付けて見守り話し合っている。食事はもちろんであるし、毎日便がない方は、2日に1回、3日に1回と個々の食事摂取や体力に見合った状態での排便を促している。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望があれば浴うが、希望は聞かれないのが現状。排便の状態も検討しながら、入浴したりすることもある。	冬至には毎年元スタッフが柚子をおすそ分けしてくれるとのことで、湯船に浮かべて柚子湯を堪能している。利用者様が笑顔で柚子湯につかる写真が廊下に掲示されている。利用者様1名あたり2日に一回の入浴を実現している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なかなか本人からの訴えが聞かれない場合が多いため、状態、表情を見なが、個々の休息等に努めている。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師と症状を話し合い、同様の内服薬の継続だけではなく、状態に応じて減らしてもらったり変更してもらったりを常に心がけている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々のできることをできるだけ活かして、自信を失わないように心がけている。買い物好きな人には買い物支援、散歩が好きな人、ドライブが好きな人等できるだけ添えるようにしている。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出時に地域の協力等を得られていないが、ご家族様と一緒に黄桜を見に行くことができた。できるだけ季節を感じるような外出を心がけ、コロナ禍の中でも、人込みをできるだけ避けながら、ダリア園や紅葉ドライブを楽しむことができた。	月に3回の各種行事を計画実行している。コロナ禍でストレスが溜まらないよう、室内行事を更に充実させ、ゲームなどで楽しく過ごせるよう工夫している。ふぁみりい通信での数多くの利用者の笑顔からも、ホームの努力が伝わってくる。	
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症の方々であり、お金を持っていることで逆の不穏な状態になることが多い。できる人には所持しているように話す、預かってほしいといわれることが多い。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	もちろん希望があればしてもらおうが、希望が聞かれない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの飾りを心がけ、写真や壁面をみんなと一緒に作り上げ、共に季節感を感じられるようにしている。バリアフリーになっているため汚物の匂いは特に気を配っている。また居室内の匂いも気を付け、においの強い方には芳香剤、消臭剤等の配慮をし、室温調整も朝、昼、晩とするよう心がけている。	加湿器が設置され、温度調整のできる循環式暖房で温度湿度の管理がされており、更に乾燥が気になる場合は洗濯物を干すことで湿度を管理している。気になる臭いや音等は一切感じられない。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや自席、テレビ前など、自然と皆が居心地の良い場所を決めており、落ち着いた場所に自然とおさまっている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけ自宅の部屋と近いような間取りにしている方もいるが、こだわりが特にない方に関しては、安全性を考慮した配置にしている。	火災の危険性の無い循環型暖房を採用している他、各居室にエアコンが整備されている。窓からは広大な田園の四季の移ろいが満喫できる。夏はカエルのオーケストラ、秋にはコオロギの泣く声を楽しめる。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	名札、場所の名前などを明記し、できるだけ場所間違いの少ないような工夫をしている。独歩で歩きやすいよう、極力廊下にもものを置かず、手すりもつかみやすい状態にしている。		